

駅周辺にふさわしい都市機能に応じた6つの類型

都市計画マスタープランを基にした都市機能の類型				
都市機能の類型		地区の概要	例示駅	分類の指標（例）
1	商業・業務系（広域）の地区	都心にふさわしい多様な商業・業務機能の更なる集積や充実を図る。 ○都市の活力とにぎわいを支える都心部の地区 ○京都の玄関口である京都駅周辺の地区	例： 京都駅、 河原町駅、 四条駅 など ■河原町駅周辺 	○商業・業務系用途が既に多く集積している地区 根拠となる要素（年間商品販売額（小売業）、従業者数、事業所数など） ○市内や他都市からも人が多く集まる地区 根拠となる要素（駅の乗降者数、パーソントリップのODデータなど） ○利便性が高い地区（基盤が整っている地区、地価が高い地区）
2	商業（地域）系の地区	日常生活を支える機能に加え、商業・業務機能を中心とした、利便性の高い魅力ある都市機能の集積を図る。 ○利便性が高く、地域における生活を支える地域の核となる地区 ○今後、地域の核となりうるポテンシャルを持つ地区	例： 北大路駅、 山科駅、 太秦天神川駅 など ■北大路駅周辺 	○利便性が高く、地区周辺から人が多く集まる駅の周辺地区（基盤が整っている地区、鉄道と鉄道、鉄道とバスの乗継拠点になっている地区） ○既に商業・業務系用途が集積しており、地域の生活圏の中心となっている地区 根拠となる要素（パーソントリップのODデータなど） ○近い将来、大規模な開発が予定されている地区
3	産業・業務系の地区	操業環境の保全・向上によって、国内外の最先端のものづくり企業の本社・研究開発・業務・生産・流通機能の集積を図る。 ○らくなん進都などのものづくり産業の中心となる公共交通拠点周辺の地区	例： 十条駅、 西大路御池駅 など ■十条駅周辺 	○産業・業務系用途が多く集積している地区 根拠となる要素（土地利用現況調査における産業、業務の集積状況） ○道路などの産業に必要な基盤が整っている地区
4	住居系の地区	日常生活を支える機能を維持するとともに良好な住居の環境向上を図る。 ○居住機能が中心となっている地区	例： JR 藤森駅、 松ヶ崎駅、 松尾駅 など ■JR 藤森駅周辺 	○低層住宅が多数立地しており、夜間人口比率が高い地区 根拠となる要素（土地利用現況調査における住宅の集積状況）
5	観光・文化・交流系の地区	歴史・文化資源等の観光機能、文化・交流機能などの京都の魅力の継承と創造を図る。 ○観光機能、文化・交流機能が既に存在する地区	例： 北山駅、 阪急嵐山駅、 国際会館駅 など ■地下鉄北山駅周辺 	○歴史・文化資源などの観光機能、文化・交流機能が存在する地区 ○観光客などの地区外からの来訪者が多い地区 根拠となる要素（駅の乗降者数、パーソントリップのODデータなど）
6	学術系（大学・研究機能等）の地区	既に立地する大学や研究所などの学術研究機能の質の向上や充実を図る。 ○学術研究機能が既に存在する地区	例： 神宮丸太町駅、 深草駅 など ■神宮丸太町駅周辺 	○大学や研究所等の学術研究機能が存在する地区 根拠となる要素（駅の乗降者数、パーソントリップのODデータなど） ○大学の在籍学生数が多い地区

◆駅の種類

凡 例

- 商業・業務系 (広域)
- 商業・業務系 (地域)
- 産業・業務系
- 住居系
- 観光・文化・交流系
- 学術系

—表示例—

※分類が2つ以上ある場合

- 商業・業務系 (広域)
- 住居系
- 産業・業務系

